DJ-M10　拡張版 取扱説明書

DJ-M10 作業連絡用無線システム子機（トランシーバー）は多彩な機能を搭載しています。
本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない「拡張セットモード 1」、「拡張セット
モード 2」のメニュー内容と操作方法の詳細について説明します。

本機には、普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってはカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード 1」に持たせています。さらに「拡張セットモード 1」の項目より使用頻度は低くても同様にカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード 2」に持たせています。通常の設定項目にしなければならないほど頻繁に使われない上、意味が分かってお使いいただかないと電池を早く消費したり、表示が変わったり、一部の機能が使用できなくなるなど「故障かな？」と思うような動作をするため、拡張操作をしないと使えないようにしています。内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいため、操作方法も敢えてこの説明書の最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモード項目の後ろに続けて表示されます。

ユーザーが誤って管理者設定を変更するリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、完全リセットをしないと初期化されないようになっています。

１）拡張セットモード１

※押す回数、はセットモードに入って「SqL 3」表示からダイヤルを押し下げる回数です。

No.	メニュー	初期表示	選択項目	初期値	※押す回数
5	コンパンダー	on ComPnd	on/oFF	on	4
6	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF	5
7	サウンド	on Sound	on/oFF	on	6
8	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF	7
9	エンドピー	oFF EndP	on/oFF	oFF	8
10	バッテリーセーブ	on1 bS	oFF/on1/on2/Eco	on1	9
11	オートパワーオフ	oFF APo	oFF/30/60/90/120	oFF	10
12	電池電圧参照	○○ ○.○○	-	-	11
13	モニターホールド	oFF monHLd	on/oFF	oFF	12
14	PTT オフ	on Ptt	on/oFF	on	13
15	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L	14
16	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF	15
17	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF	16
18	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4	17
19	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1sec）	10	18
20	イヤホン断線検知	on EAr-C	on/oFF	on	19
21	秘話周波数	34 Scr-Fq	27～34（×0.1KHz）	34	20
22	秘話エンファシス	oFF EmPHA	on/oFF	oFF	21
23	別売アクセサリーの PTT 対応	ALL inSptt	oFF/out/ALL	ALL	22
24	M1 ボリューム切り替え	oFF m1-voL	on/oFF	oFF	23
25	同時通話フリー個別番号	oFF FrEECH	on/oFF	oFF	24

【ご注意】ＤＪ－Ｍ１０には、同時通話以外の通話モードを含む兄弟機種と共通の機能が多くあります。これらの中には兄弟機種に必要でも、同時通話に特化した本機には使う意味がない機能があります。特にいくつかは変更するとデメリットにしかならないものがありますので、変更されるときは十分ご注意ください。

No.5　コンパンダー　on ComPnd

コンパンダー機能を ON に設定すると、通話中、音声が無いときに「サー」と聞こえるかすかなバックノイズを低減することができます。ON に設定するとディスプレイに「♫」が点灯します。

この設定はＯＮのままでお使いください。Ｍ１０でオフにするメリットはありません。

No.6　秘話　oFF ScrbLE

秘話機能を ON に設定すると、設定をしていないトランシーバーで受信したときには「モガモガ」のような声になって通話内容が聴き取れなくなります。ON に設定するとディスプレイに「秘話」が点灯します。

注）本機能のセキュリティレベルは非常に低いものです。機密を要する重要な通話に使えるレベルのものではありませんのでご了承ください。秘話設定にしても声が違和感なく聞こえないときは、セットモード No.21 秘話周波数またはセットモード No.22 秘話エンファシスが変更されている可能性があります。また、従来機種と組み合わせて使用される際は、通話内容が聞き取りづらくなることがあります。

No.7　サウンド　on Sound

本機のサウンド（キー操作音、各種アラーム音、ベル音）を設定する機能です。

No.8　ベル　oFF bEEL

ベル機能を ON に設定すると、呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。ON に設定するとディスプレイに「🔔」が点灯します。

メモ）一度ベルが鳴るとその後約 10 秒間は新たな着信を知らせるベルは鳴りません。

この機能も、同時通話モード時には余り意味がありません。

No.9　エンドピー　oFF EndP

「PTT」キーを離したときに「ピッ」と鳴り送信が終わったことを相手にお知らせする機能です。

誰かが同時通話から抜けたことを、全員に知らせることができます。

No.10　バッテリーセーブ　on1 bS

待ち受け状態が 5 秒以上続くと内部電源を定期的に ON/OFF させて電池の消費を抑える機能です。

バッテリーセーブ機能は OFF、ON1、ON2（ロング BS）、ECO（エコ BS）から選択します。ロング BS は低消費モード、エコ BS はさらに低消費モードです。 バッテリーセーブ機能を OFF に設定するとチャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

注）ロング BS とエコ BS では受信音声が出力される際に頭切れを起こすことがあります。

　　OFF にすると受信音声出力の反応はよくなりますが、電池の消耗が早くなります。

この機能も、常時電波が出ている同時通話モード時にはＢＳ自体が動作しないため、余り意味がありません。設定していても、効果は感じられません。

No.11　オートパワーオフ　oFF APo

電源の切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くとビープ音でお知らせし自動的に電源が切れます。オートパワーオフ機能はOFF、30 分、60 分、90 分、120 分から選択します。
本機の主用途から考えて必要のない機能ですから、オフにしておくことをお勧めします。

No.12　電池電圧参照　t3またはLi-数字

電池のタイプと電圧を表示します。「t3」は単三形電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。外部電源端子から電圧が供給されているときは「FULL」を示します。
表示は目安で、個体のばらつきもあります。電池が切れるときの数値を覚えておくと、より精度の高い減電池表示として使えます。

No.13　モニターホールド　oFF monHLd

モニターホールド機能をONに設定すると[モニター]キーを一度押すことでモニター状態になり「ザー」というノイズが鳴り続け、[モニター]キーを押し続ける必要がなくなります。もう一度[モニター]キーを押すとモニター状態が解除され「ザー」というノイズが止まります。
電波が弱い時に便利に使える機能です。

No.14　PTTオフ　on Ptt

本機を受信専用として使用する場合に送信を禁止する機能です。[PTT] キーを押しても送信しません。
注）VOXでの送信については、OFF設定は無効で、送信します。

No.15　外部音量変更　EvoL-L

外部出力端子へスピーカなどを接続して使用する際、音量が小さい場合には H 設定にして全体的にボリュームを上げることができます。受信専用でスピーカを使い、大きな音を鳴らしたい時は H 設定にします。

No.16　コールバック　oFF CALLb

2者同時通話モードの同時通話で自分が話した声をイヤホンから鳴らし話しやすくする機能です。周りの騒音が大きいときに自分の声が聞こえることによって話しやすくなります。

注）4者同時通話モードの同時通話で自分が話した声がイヤホンから鳴る動作については、コールバック機能ではなく親局と通話をするときに原理上発生するものです。従い、自声を消すことはできません。

No.17　VOX　oFF vo

[PTT] キーを押さなくてもマイクに音声入力があると自動的に送信する機能です。
VOX機能はVOX 感度をOFF、Lo、Hi から選択します。

Lo：VOX 感度 小（大きめの声でないと送信しません。周りがうるさく、黙っていても送信してしまうようなときの値です）
Hi ：VOX 感度 大（小さめの声でも送信します。周りが比較的静かなときはこちらをお試しください）
注）VOX機能はイヤホンマイクかヘッドセットのみ有効です。本体マイクやスピーカーマイクでは動作しません。この機能も、本機の性質から、使う必要が無いものです。オフでお使いください。

No.18　マイクゲイン　4 m-GAin

通話時の癖やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。他社製のマイクをお使いになる時もレベル調整が必要になる場合があります。設定を間違うと声が小さくなったり歪んだりしますのでご注意ください。

No.19　VOX ディレイ時間 10 vod-t

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間、送信状態を保持するため、息継ぎしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、息継ぎなどですぐ送信が落ちることもあり、実験して確かめてからお使いください。
これもＶＯＸの設定ですから、必要はありません。

No.20　イヤホン断線検知　on EAr-C

本機は起動時に自動的にイヤホン断線検知をおこないます。インピーダンスが高いなど、外部出力端子へ接続する機器によってはまれに断線検知が誤動作することもあり、OFF が選べるようになっています。

No.21　秘話周波数　34 Scr-Fq

秘話のキャリア周波数を設定します。初期値と異なるキャリア周波数を使うときは、通話したいグループ全員の設定を同じ値に揃えて変更してください。

No.22　秘話エンファシス　oFF EmPHA

弊社製 DJ-M1 を合わせてご使用いただく際に秘話通話の相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えることによって改善される場合がありますのでお試しください。

No.23　別売アクセサリーの PTT 対応　ALL inSptt

4 極プラグのオプションイヤホンを使うときに、本機 PTT と本機マイクの有効／無効を選べます。使用するアクセサリーに合わせて設定してください。

oFF　：本機 PTT 無効・本機マイク無効（オプションの PTT とマイクのみ有効）
out　：本機 PTT 有効・本機マイク無効（マイクは外部マイクのみ有効、PTT は両方が有効）
ALL　：本機 PTT 有効・本機マイク有効（イヤホンだけを使うときの設定）

イヤホンマイクに向かって通話するのがメインの本機では初期設定（ＡＬＬ）を変える必要はありません。ＡＬＬならマイクが断線した非常事態でも、Ｍ１０本体のマイクに向かって話せば通話ができます。

No.24　M1 ボリューム切り替え　oFF m1-voL

<u>ＤＪ－Ｍ１とＭ１０を混用するときに便利な機能です。</u>

本機と弊社製 DJ-M1 を合わせてご使用いただく際、双方に送信と受信の音量に違いがあり、それぞれ音の聞こえ方が違ってきます。M1 ボリューム切り替え機能を ON に設定することで、送信と受信の音量が DJ-M1 と同等になり、聞こえ方の違いを緩和することができます。

No.25　同時通話フリー個別番号　oFF FrEECH

ご注意）同時通話フリー個別番号機能は、送信ボタンを押すと始めに空いている個別番号を自動で探してから送信します。そのため、送信を始めてから相手に音声が聞こえるまで最短で約2秒、最長で約5秒かかります。従い通話が一時的に途切れるので、危険な作業などをしている最中にユーザーの切り替えは行わないでください。

4者同時通話モードで同時通話をする際、空いている個別番号に自動的に割り当ててから送信する機能です。一度この項目の設定をして、チャンネルグループを合わせておけば、以降は個別番号割り当て操作を省略して使うことができる便利な機能です。

同時通話フリー個別番号をONに設定すると、ディスプレイの個別番号「01」～「04」の表示が「SCn」の点滅表示になります。

ＰＴＴキーを押して送信すると、設定されたチャンネルグループ内の個別番号「01」～「04」の空き状態を自動でスキャンします。空いた個別番号を見つけるとその番号に自動で切り替わり、その番号がディスプレイに表示されます。このとき、同一チャンネルグループ内の4者がすべて通話中の場合、空き状態が見つからず送信できないことをアラームでお知らせします。ＰＴＴボタンを解除するか、アラーム鳴動中に通話できる状態になったらアラームは止まります。ＰＴＴボタンを解除すると再度「SCn」の点滅表示なります。

注）チャンネルグループ（A～J）は親局（DJ-M1R/M2R）と同じチャンネルグループに合わせてください。拡張８台連結を使うときは、２つのグループに分けてください。

注）子機間の距離が近すぎる場合、強い電波が干渉しあって正常にスキャンができないことがあります。このときは全員が１０ｍを目安にお互いが離れてから送信してください。
また信号が弱いなど通話状態が悪い場合、通話中の番号を空きと誤って認識して同一チャンネルに同じ個別番号を割り当てることがあります。このときは混信で声が歪んだり、信号が強いほうが弱い信号を消して聞こえたりするなど、正常に動作しなくなります。
この時は、どちらかが一度ＰＴＴキーを解除して、通話中の全員が通話できる状態の時に改めてＰＴＴキーを押してください。一度個別番号が割り当てられたら、ＰＴＴキーを解除するまで番号が変更されることはありません。

２）拡張セットモード2

※押す回数、はセットモードに入って「SqL 3」表示からダイヤルを押し下げる回数です。

No.	メニュー	初期表示	選択項目	初期値	※押す回数
26	ループ	oFF AFLooP	on/oFF	oFF	25
27	キーロック時間	Loc 2	1～3	2	26
28	音色変更	1 mELody	1～3	1	27
29	LCD 消灯	on Lcd	on/oFF	on	28
30	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60（秒）	oFF	29
31	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2	30
32	AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL	31
33	AGC　ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24（× -1dB）	6	32
34	レストア	oFF rESto	oFF/SAv/Lod/dEL	oFF	33
35	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on	34

No.26　ループ　oFF AFooP

2者同時通話モードの同時通話で第三者が会話を聞くことができる機能です。ループ機能は最初に呼び出しをおこなうトランシーバーに設定するだけで動作しますが、だれが最初に呼び出すか決まっていないことの方が多いので、全員のトランシーバーに設定しておくほうが便利です。全員に設定しても問題はありません。

No.27　キーロック時間　Loc 2

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定します。時間を長くすればキーロック設定の誤操作が少なくなります。

No.28　音色変更　1 mELody

ベル機能の音色が変えられます。モニターボタンを押すと音色が確認できます。

No.29　LCD 消灯　on Lcd

送受信中にディスプレイ表示を消灯する機能です。液晶が発するノイズが原因で送受信音に雑音が入ることがあり、ON にするとノイズ対策に有効な場合があります。

No.30　減電池アラーム（アラーム間隔）oFF bAtt-C

電池の電圧が低下するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、減電池をアラームでお知らせします。このとき設定時間ごとに１回、電池が減っていることを「ププッ」音で知らせることができます。電池が減っている状態で音を鳴らしてお知らせするため、間隔を短く設定するほど早く電池が切れてしまいます。

No.31　グループトーク判別精度　2 mG-ton

グループトークでのトーンの判定精度を調整することができます。受信しても音声が出ない、受信音声が途切れるなど障害がある時に有効です。１が最も厳しく、５が甘くなります。甘くし過ぎると受信音声が途切れにくくなりますが、テールノイズキャンセル機能が働かなくなるため、スケルチが切れるときの「ザー」ノイズが聞こえます。初期値の２は、かなり正確なトーン判定をします。

メモ）Ｍーシステムでは、混信を防ぐために自動でグループトーク機能が動作します。弊社での実験では

M1 と M10 を混用しても、グループトークの精度による通信障害は確認できませんでした。但し、長年お使いいただいて無線機内部の調整値がずれるなどの理由から精度が悪くなることは考えられます。変更されるときは、グループ内のすべてのＭ１０を甘い方向に設定してください。

No.32　マイク AGC 切り替え　SL AGC

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他機種と混用する場合、相性問題を解決できることがありますが、下手に設定を変えると逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全ての機種で音質確認してください。

No.33　AGC ターゲットレベル調整　06 AGC-tG

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるため、必ず実験してからお使いください。
No.32 と 33 は、多様な機種が混在する状況で効果を感じることがありますが、Ｍ１とＭ１０しか子機が存在しないＭーシステムでは下手に変更すると音が悪くなるだけなので、変更する必要はありません。音量の違いは No.24　Ｍー１ボリューム切り替えが有効です。

No.34 レストア　oFF rESto

チャンネル情報、セットモード情報をリセットしても消えないように記憶させ、復元させる機能です。
リセット後の面倒な設定やり直しをせずに済みます。

＊本体を記憶させたい状態に設定します。ダイヤルを回して Sau/Lod/dEt を選びます。
SAv: [グループ]キーを 2 秒押し続けるとチャンネル情報、セットモード情報が保存され「rSt writE」を表示します。新しい設定を記憶するときは、この操作を繰り返せば上書きできます。
Lod: [グループ]キーを 2 秒押し続けると保存した情報を復元します。復元が終わると「rSt rEAd」が表示され、自動的に再起動します。何も保存されていない場合、「rSt nodAtA」が表示され読み出しがキャンセルされます。
dEt: [グループ]キーを 2 秒押し続けると記憶させた情報を消去します。終わると「rSt ErASE」が表示されます。完全に工場出荷状態まで戻す時は、消去してからオールリセットしてください。

No.35 減電池スリープ　on bt-SLP

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると自動的に電源を切ります。それでも待機電流は発生しているため、バッテリーパックは取りだして保管してください。OFF にすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差はありません。通常は on でお使いください。

［拡張セットモードへの切り替え］

１）拡張セットモード１

１：キーロックを掛けます。（２つあるうちの、どちらの方法でも同じです。）

２：10 秒以内に[モード]→[モード]→[モード]→[モード]→[モード] を入力します。
キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープが鳴り、自動的にキーロックが解除されます。

３：セットモードに入ると拡張セットモード１のメニューが追加されています。

２）拡張セットモード２

１：キーロックを掛けます。（２つあるうちの、どちらの方法でも同じです。）

２：10 秒以内に[モード]→[ファンクション]→[モード]→[ファンクション]→[モード]を入力します。
キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープが鳴り、自動的にキーロックが解除されます。

３：セットモードに入ると拡張セットモード１と拡張セットモード２のメニューが追加されています。

＊ 変更した値を保存して拡張セットモードメニューを隠すには、上記１～３の操作を繰り返します。

＊ チャンネルや通常のセットモードで設定したパラメータも含め、全てを工場出荷状態まで初期化するには、完全リセットを行ってください。通常リセットでは拡張セットモード部分は初期化されません。

【完全リセット】

電源を切った後 ［ファンクション][モード] ［モニター]の３つのキーを押した状態で電源を入れます。
全てのセットモードの内容がリセットされ、工場出荷状態に戻ります。

レストア機能を使ったときは、セットモード No.34 の rESto メニューで dEt 操作をしてデータを消去しないと完全な出荷状態にはなりません。

以上

アルインコ（株）電子事業部